

発刊にあたって

淑徳大学学長 足立 勲

『淑徳大学年報』は、平成24年度版から、それまでの編集方針の大幅な見直しの下で発刊され、この平成25年度の『年報』は、そうした新たな編集方針による2年目の発刊となります。この新たな編集方針による『年報』のさらなる内容刷新の視点を改めて確認しておく、本『年報』の28頁に記載されているように、「大学の教育改革に向けた各担当組織・部署の目標と課題を明確にして、PDCAサイクルをもって取組む進捗状況の報告」を基本として記載すること、そしてまた、「そうしたPDCAサイクルへの取組み（特に『点検・評価』と『次年度に向けた課題』への取組み）の実質化の観点から、（平成24年度版までは）その発行時期が丸1年以上遅れていたことについても、（平成25年度版からは）少なくとも次年度の半ばころには発行できるようにすること」の2点です。特に後者については、各関連委員会・関連部署の多忙な日常業務の中で、前学期早々から、その作成スケジュールを組むことが求められたのですが、大学年報編集委員会 山口光治委員長はじめ、委員の皆さんの「是非とも次年度半ばには発刊したい」との熱意と強い意志が大学協議会の場においても伝わり、各キャンパスの各関連委員会・関連部署の協力を得ることができ、本『年報』（平成25年度版）は予定通り、ここに平成26年度半年を残して、この秋に発刊されました。

このように『淑徳大学年報』の編集・作成の過程そのものが、本学における教育改革の現在進行形としての取組みとその歩みの可視化の一環となっていくことは、教育改革を推し進めていくためにも極めて重要なことであると思われまます。その意味でも、この平成25年度『淑徳大学年報』の活用を通して、各キャンパスの各関連委員会・関連部署において、大学年報編集委員会がその編集の目的とした「昨年度に実施した年報の大幅な見直し後の2年目として、昨年度の課題等を踏まえたうえで、各事業・取組み等がより明確な『PDCAサイクル』に沿った形でなされ、点検・評価及び課題の抽出がなされること」、そして、そのことにより、各キャンパス、各学部・研究科の教学運営が教育改革の実質化に向けて今まで以上に活性化していくことを願うものです。

最後に、『年報』の正確な作成スケジュールに沿って、計画通りに編集を進めてこられた大学年報編集委員会の皆様のご努力と、各執筆に当られた各位のご協力に感謝申し上げ、発刊にあたってのご挨拶とさせていただきます。

2014（平成26）年 9月